



第 139 号

令和 5 年

3 月 23 日発行

蒼 雲

”努力するということ“

校長

山崎

誠

校長として赴任して2年目となる令和4年度が終わります。コロナ禍での生活も3年が過ぎ、やっと出口が見え始めた今日の頃ですが、これまでの見通しが持ちにくく3年間は誰にとっても苦しいものだったと思います。その中であって三高生が見せてくれた努力、がんばり、汗、笑顔には勇気と感動をもらいました。その過程や結果で流した涙には悲喜こもごもの感情があったと思います。うまくいかないことへの涙、努力が実った涙、実らなかった悔し涙、コロナ禍で努力する機会さえ奪われたことへの悔し涙・・・その中で支え続け応援してもらった保護者のみなさま、地域の方々はじめ多くの方々への感謝の気持ちは、三高生一人一人がしっかりと抱いていると思います。教職員も同じです。この場を借り学校を代表してお礼を述べさせていただきます。本当にありがとうございます。

さて、赴任してから掲げた学校の合い言葉「小さな挑戦、小さな気遣い、大きな志、自立した大人となるために」については、多くの場面で意識してもらったと思っています。素敵な大人の方々の背中を見ながら、各自が自分の自立した姿を思い描き、その実現に向けて今後も努力していったって欲しいと思っています。

努力と言えば、故野村克也氏の著書『なぜか結果を出す人の理由』が頭に浮かびます。野村克也氏は偉大な野球選手で名監督ですが、ドラフト指名ではなくテスト入団でした。途中何度も解雇されそうになるた

びに人一倍努力して、認めてもらえるまで妥協せずがんばった中で得た「努力はウソをつかない。けれど、まちがった努力はウソをつく。」「正しい努力に気づく人と気づかない人で差が出る。」「という言葉には深く考えさせられるものがあります。よく私たちは、「努力はウソをつかない。」と言います。しかし、努力にも正解と間違いがあるようです。「才能があつて努力しない人と才能はないが努力する人はどちらが勝つか？」という答えは明白だと思っていますが、正しい努力とは何かを考え実行できる力を学校教育の中で培っていく必要があると考えています。

努力が実り、先日卒業生に授与された卒業証書には、「本校所定の総合学科の課程を修めその業をおえたことを証する」という28文字が書かれています。3年間の日々を思い出しながら28文字を噛みしめて読んだ時に、卒業生の脳裏には何が浮かんだでしょうか。そもそも「その業をおえる」とはどういう意味なのでしょう。「業」とは、「学業」のことだと思いますが、辞書には「業」を「なすべきこと」「努力して成し遂げる事柄」としているものもあります。高校時代には、「何をすべきだったのか。それはできたのか。」「努力して成し遂げる事柄とは何だったのか。それは成し遂げられたのか。」「学業とは学問だけを指すのか。・・・この28文字を読みながら、その行間にあることを卒業生や在校生には考えてもらいたいと思っています。そして、何年後かに、今は感じる事ができていないかもしれないこの3年間で育まれた成長に気づけるような、さらにそれを積み重ねていく日々をこれからも送ってほしいと思います。なによりも、今、そして未来において、この3年間を支えてくれた人たちへの感謝の気持ちをいつまでも

忘れずに持ち続けてもらいたいと願っています。

感謝の気持ちを持つことは、これまでの成長や学びを振り返ると同時に、仲間や相手を思いやる気持ちにもつながります。こうしたことが、社会貢献、キャリア教育の原点だと思っています。

以前キャリア教育に関する研修を受けた時に、宮城県出身の講師の先生が次のようなエピソードを紹介されました。・・・震災後、ある町で中学2年生の女子達がみずから動き出した。自衛隊の方々が調理した炊き出しを避難所に来られない人達に持って行き出したのだ。印象的だったのは、それまで校内で問題視されていたある女生徒2人が、自分の家から出られない老夫婦に炊き出しを届け、捨てられる食器なのに、下げないといけない食器だからとやさしいうそをついて、老夫婦と食事の時間を一緒に過ごしていたこと。捨てられる食器をわざわざ下げてくる女生徒の姿に、涙が止まらなかった。・・・また、「震災に対して何もできない自分がくやくやくして、くやくして。ただ泣くだけで。うんとくやくやくして。勉強して、勉強して、こんな時こそ何かできる人になりたい。」と話してくれた女子中学生の言葉も紹介されました。

人を前に突き動かしていく原動力の一つが自信です。自信は笑顔の源にもなります。自信は志や夢の実現に向かって逆境や失敗を乗り越えるために努力するからこそ生まれるものでもあります。同時に、逆境や失敗を乗り越えることができるのは、決して見捨てない家族や仲間、地域の方々など多くの人々の存在があるからです。卒業生が、努力を続けた3年間で抱いた感謝の気持ちを、これから身近な家族はもちろん、社会のいろいろな人たちに様々な形で届け、返して行ってくれると信じています。



支え合い

生徒会長 古藤 敬吾

私は生徒会長になり、初めて学校のリーダーとなる立場になりました。生徒会長になると、人前であいさつをする機会が増えました。私は今まで人前であいさつをする機会がありませんでした。コロナ禍ということもあり、リモートでのあいさつがほとんどでした。リモートでのあいさつは相手の顔が見えず、反応もわからないため、やり辛さを少し感じながらも、リモートでのあいさつに少しずつ慣れ始めていました。そんな時、私は卒業式で送辞を述べることになりました。送辞はこれまでのリモートでのあいさつと違い、対面で行う上に、卒業生、卒業生の保護者、先生方など大勢の人の前で話すものです。当日のかなり前から緊張や不安、自分の中でいろいろ考えるものがありました。それを乗り越えることができたのは、手伝ってくれた生徒会の仲間や友だち、先生、応援してくれた家族がいたからです。本番はやはり緊張しましたが、卒業生のみなさんに在校生の思いを伝えることができました。終わった後は「よかったよ」「おつかれ」などの温かい言葉をたくさんかけてもらい、自分は多くの人に支えられて生徒会長ができていたのだなということも実感しました。

また、先日生徒会で行った地域のゴミ拾いでも多くの支えを感じる事ができました。ゴミを拾いながら歩いていると、「ありがとう」と声をかけてくれる人や一緒にゴミを拾ってくれる人もいました。ここでは三刀屋高校は地域の人に支えられているのだということを実感しました。このような支えをいただけるのは、これまで先輩方がボランティア活動をされてきたり、日ごろ欠かさずあいさつをしたりして信頼関係を築いてこられたからだと思います。私たちはそのような伝統を引き継いで良い地域関係、良い学校生活を保つために頑張っていきたいと思います。私がひとりで行えることは限られています。今後の生徒会活動でも、生徒の皆さんの力が必要ですので、生徒会活動へのご協力をよろしくお願いします。



JRC部

本誌138号で報告した『全国総合文化祭』以降にも、『全国ボランティアスピリットアワード・コミュニティ賞』『厚生労働大臣感謝状』『島根県優良少年団体表彰』を受賞することができました。さらに3月末には秦くるみさんが『全国青少年赤十字リーダーシップスタディ・プログラム』に代表出場することが決まりました。

これらの顕彰はすべて、地域のほんとうにたくさんの皆さんが快く協力していただいたからこそです。地域みなさんへの顕彰だと、みんなが心からそう感じています。ご協力ありがとうございました！

今年度は『梅でつながる魅力発信・交流プロジェクト』も始動し、地域の皆さんと一緒に活動してきました。その中でも、梅の収穫体験、梅しごと、梅ジャム作り、梅ジャムをオリジナルデザインで販売、峯寺森林公園の看板6基と大地図2基をオリジナルデザインで設置、看板おひろめ交流会^①は、どれも大好評でした。

また、全校生徒がもれなく毎日昼食を食べられるよう昨年度やっと実現した昼食販売は、たくさんの方々とボランティア生徒の皆さんに支えられて大好評です。永井隆博士ワークシートも増刷を待ってもらっているところ。約25年ぶりに復活させた献血も2年目です。その他にも救急資格や災害時対応研修や街頭募金など、何にでもチャレンジしています。

特に『厚生労働大臣感謝状』は、三刀屋高校生が献血を始めた昭和からの記録で、約25年中断していたものを昨年度に復活させたこと、その献血への啓発を工夫し、県内高校の歴代最多の生徒が協力しているここ2年間の実績、そして昭和からの累積が4千人に達したことを顕彰されたものです。三刀屋高校の歴代の先輩方、献血協力への伝統をつくってくださいあってありがとうございます！三刀屋ライオンズクラブのご協力もありがとうございます。これからもずっと続けていきます！

活動内容の詳細は、ぜひ本校HP、いろんな機関誌、Instagram等をぜひ見てください。

これからも大好きな雲南三刀屋で『気づき・考え・実行』していきます！



演劇部

12月23日(土)・24日(日)に中国5県から11校が参加して開催された第60回中国地区高等学校演劇発表会(下関大会)に、三刀屋高校と三刀屋高校掛合分校が参加しました。三刀屋高校は木次線をモチーフにした「ローカル線に乗って」を上演し、昨年度に引き続き最優秀賞(文部科学大臣賞)を受賞しました。これにより、今年の夏に鹿児島県で開催される第47回全国高等学校総合文化祭(2023かごしま総文)に中国ブロック代表として出場する権利を得ました。一方、掛合分校上演の「走れ!山月記」は第3位に輝き、本校・分校で第1位・第3位を獲得する歴史的な快挙となりました。また、分校の照明や音響は本校演劇部員がスタッフとして手伝い、本校と分校がタッグを組んで勝ち取った意義ある受賞にもなりました。



三刀屋高校、掛合分校、松江北高校、松江工業高校の生徒を乗せたバスが三刀屋を出発した12月23日は、この冬一番の強い寒気が流れ込んで、最大瞬間風速30mを記録する大荒れの天気となりました。空の便、鉄道ともに運休し、中国地方の高速道路もほぼ全区間が通行止めになる中、国道9号線を益田、津和野、山口、宇部と走り、7時間以上かかって下関市民会館に到着しました。到着時刻の見通しがつかず、リハールができなかもしれない不安を抱えながらの移動でしたが、山口県事務局の支援やリハール時間を交代してくれた鳥取県立米子東高校と鳥取県立境高校のおかげで、無事にリハールを終え、本番の準備を整えることができました。ホテルに戻ったのは午後10時という大変な1日でしたが、演劇を愛する仲間たちの温かい心づかいに触れた1日でした。

今回、ローカル線をテーマにお芝居をするにあたって1つ大きな問題がありました。それは、部員たちは木次線をほとんど利用しない、あるいは使ったことがないという問題でした。さすがにこれでは観る人の心に届く芝居にはなりません。つまり、自分たちがローカル線をテーマにした演劇をする意味、観客に伝えたいメッセージを考えなければなりません。そこからスタートしました。不便なものを利用しない、利用しないものは消えていく現代において「便利な生活」が「豊かな生活」なのか、「人間にとって本当の豊かさとは」という難しい問いについて部員全員で何度も話し合いました。そして、先人たちの郷土への思いが時を超えて今も引き継がれていること、人生の時々の大切な思い出が故郷の風景とともに色鮮やかに記憶されることが本当の豊

かさであるという結論に達し、このメッセージを全員が深く理解し、多くの人に届けたいという思いを一つにして、演じることができました。今年、7月30日(日)〜8月1日(火)に鹿児島県鹿児島市川商ホール(鹿児島市民文化ホール)で開催される第69回全国高等学校演劇大会(鹿児島大会)での上演に向けて、演技にさらに磨きをかけ、全国の人に演劇を通して大切なメッセージを届けていきたいと考えています。演劇指導をしていただいた亀尾佳宏先生、支えていただいた地域の方々に深く感謝申し上げます。



『産業社会と人間』と総合的な探究の時間について

生徒の皆さん、保護者の皆さま。年末の学校評価アンケートにおいて、『産業社会と人間』と総合的な探究の時間に関して高い肯定的評価をいただき、この場を借りてお礼申し上げます。

1年次の学校設定科目『産業社会と人間』と総合的な探究の時間の授業において、「地域を構成する人の在り方生き方、地域の方々が取り組む地域の課題」を探究課題に掲げ取り組みました。1年生では、「自分を知る」「学び方を知る」「働くことを知る」「地域を知る」「探究を知る」の5つの領域について系統立てて学びました。



『学び方を知る』では、

島根大学から講師を招き『学び方の特徴を知る』、『話し合いの授業』を行い、自分に合った学習方法を知る機会を与え、これからの協働で話し合いが増えることから話し合うことについて学びました。



1年『学び方の特徴を知る』講座



1年『話し合いの授業』講座

『働くことを知る』では、

地域の方を講師に招き、職業についての紹介と、その職に就くための方法について情報提供をいただきました。その情報をもとに学問探究やキャリアデザインプログラム①（島根大学訪問）、文理選択、系列選択へとつなぎました。



1年ジョブスタディ(講師(左)は卒業生)



CDP①島根大学訪問

『地域を知る』では、

地域の方にその人の歩んだ人生について、『幸せの4因子』を軸に話をいただきました。地域に住む方々の多様な考え方に触れる場になりました。それらの内容を『学びの発表会』で発表しました。



1年ゲストトーク



1年学びの発表会

「産業社会と人間」については

内容のアップデートを行いNTT docomoの協力により5Gがもたらす未来に関する講義を入れました。このことによって、理系に興味を持った生徒が現れたと聞きます。また、例年行われていなかったライフプラン講座を復活させ、男女共同参画社会を軸に将来の在り方生き方を生徒個々人で考えられる場を設けました。このように一つ一つの種が学びへの主体性につながっていくことを願います。主体性を育み、高校生活やその後の人生がより豊かなものとなっていくようキャリア教育を推進していくとともに、全ての教育活動を通して社会力、人間力を育てています。



1年生『ライフプラン』講座



1年生『先端技術研修(5Gがもたらす未来)』

2年生では「教科の学習内容」「地域」をテーマに

前・後期に分け、それぞれ仮説の設定・検証、成果発表を行いました。

後半の「地域」をテーマにした探究活動では、地域の方とのやり取りから地域の課題を慮り、その解決に向けたアクションに取り組みました。その活動を探究アワードで発表しました。地域パートナーの方にも来ていただき、活動の感想などを共有しました。



2年課題研究
ポスターセッション



2年地域パートナー
インタビュー



2年地域パートナー探究
(かもてらすコンサート)



2年探究アワード

そのほかキャリアデザインプログラム(②島根大学、島根県立大学や、③松江・出雲両市内の専門学校、事業所などのオンライン・実地見学)を行い、段階に応じて自らの在り方生き方を考える場を提供しました。



CDP ②坪内総合ビジネス
カレッジ他訪問



CDP ③近隣大学専門学校
などの出張講義に参加

また、研修旅行では、徳島県神山町を訪問し、町おこしの創成期から活動している方々の講演やワークショップを通して、雲南市や島根県の活性化について考える機会を得、自らの進路を見つめ直す機会にもなりました。



研修旅行 徳島県神山町

部活動試合結果等 (11月～)

☆写真部

- ・令和4年度高文連秋季写真コンクール 特選 入選
- ・第50回島根県高校写真展 奨励賞

☆JRC部

- ・全国ボランティアスピリットアワード (十一月 WEB開催)

- ・島根県高文連青少年赤十字 研究発表 最優秀賞 来年度の全国総文祭出場決定

☆美術部

- ・第55回島根県高校美術展 入選

☆書道部

- ・第55回島根県高等学校書道展 奨励賞
- ・第55回島根県書き初め展 入賞

☆華道部

- ・第25回学校華道インターネット花展へ出品

☆茶道部

- ・松江城大茶会

☆吹奏楽部

- ・全日本アンサンブルコンテスト島根県大会 サクソフォン四重奏 銀賞

☆演劇部

- ・第46回島根県高等学校演劇発表大会 最優秀賞
- ・第60回中国地区高等学校演劇発表会 最優秀賞(文部科学大臣賞)

☆文芸部

- ・令和4年度島根県高文連文芸専門部 文芸コンクール各部門 入賞

☆箏曲部

- ・第21回島根県高等学校文化連盟 日本音楽部門成果発表会 出場

☆放送部

- ・島根県高等学校総合文化祭放送専門部 島根県大会 朗読部門 出場

☆ダンス同好会

- ・日本テレビ「スッキリ」 ひとつになろうダンスONEプロジェクト 参加
- ・島根県高等学校体育連盟主催ダンス発表会 参加

☆野球部

- ・第139回秋季中国地区高等学校野球大会 出場

☆男子ソフトテニス部

- ・島根県高等学校ソフトテニス新人戦 出場

☆女子ソフトテニス部

- ・島根県高等学校ソフトテニス新人戦 出場
- ・県インドア選手権大会出場権獲得
- ・島根県高等学校ソフトテニスインドア選手権大会 出場

☆男子バスケットボール部

- ・島根県高等学校バスケットボール選手権大会 出場
- ・出雲地区高等学校新人バスケットボール大会 出場
- ・島根県高等学校バスケットボール新人大会 出場

【ベスト8】

☆女子バスケットボール部

- ・島根県高等学校バスケットボール選手権大会 出場

☆男子ソフトボール部

- ・中国高等学校ソフトボール新人大会 出場

☆女子ソフトボール部

- ・中国高等学校ソフトボール新人大会 出場

☆女子バレーボール部

- ・島根県高等学校バレーボール選手権 出場
- ・島根県高等学校新人バレーボール大会 出場

☆剣道部

- ・島根県高等学校新人剣道大会 出場

☆サッカー部

- ・令和4年度島根県高等学校サッカー選手権大会 ベスト8
- ・高円宮杯U-18サッカーリーグ2022 島根県ユースリーグ リーグ第3位
- ・ビクトリー杯福山ユースフェスティバル 3位



球技大会



防災避難訓練



図書館コンサート



卒業式